

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	黒門キャリアプランやコース制について満足していると答える生徒が80%以上である。	文理、コース、科目選択の説明会や定期的に行われる面談を通して、生徒・保護者へ説明し、本校の教育方針の理解を深める。	A	A	A	6月に文理・コース・科目選択説明会を開催し、7月に予備調査と三者面談を実施した。その後は大学模擬講義や課題解決型インターンシップなどの取り組みで進路に対する意識を喚起し、11月の本調査と12月の二者面談で文理・コース・科目選択を確定させた。生徒が自身に適した進路選択ができるような手厚いバックアップが実現できている。総合的な探究の時間を中心に、教科外学習では教員間に「生徒の主体性」を重視する気運が高まってきた。具体的な動きとして、文化祭の毎年開催案の検討や探究活動の学年間指導の試行が挙げられる。次年度は（開催されれば）文化祭や総合的な探究の時間が生徒の主体性の発揮により、自走できるような方向に変革できるかどうかが課題である。	・生徒の主体性を大事にする教職員の意識の向上、進路選択に係る手厚い指導充実した取り組みがうかがえる。 ・課題解決型インターンシップは順調に取り組んでいるので良かった。引き続き内容の充実の努めて欲しい。 ・生徒数や教員数が減少する中で、既存の部活動を継続することには無理があると思われる。種目や活動内容などを検討していくことは必要である。	
		学習外の活動を主体的に行えたと答える生徒が80%以上である。	特別活動、部活動、ボランティア活動を生徒主体で活動できるように計画し、生徒の活躍の場を設ける。	A	A	A			
		総合的な探究の時間（課題解決型インターンシップやRQ型課題解決などの探究活動）に主体的に取り組んだと答える生徒が85%以上である。	探究のサイクルをくり返し実践する過程を通じて、段階的に課題解決力を育成する。特に課題発見力の育成を重視し、生徒が自らの課題を自らの力で設定できるように、生徒に寄り添う指導やその指導体制を充実させていく。	A	A	A			
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	主体的に学習に取り組んでいると答える生徒が80%以上である。	シラバスを活用し、計画的に授業を進める。授業の目的を明確にし、生徒に主体的な学習を促す。	B	B	B	シラバス通りに計画的な授業が行えている。1回の授業の目的が明確になっており、目標達成に向けた授業が展開されている。ペアワークやグループ学習が取り入れられていて、生徒が主体的に活動する場面が設定されている。シラバスの有効活用や生徒の取り組みを評価する方法が今後の課題となる。 サクセスシステムの取り組みに関しては、生徒が学習成果を実感できるよう、授業を効果的に補う課外補習や課題の改善に努めた。特に今年度はスタディサプリを本格的に導入し、個別最適化された課題を与えることができた。また、生徒が主体的に自分のペースで学習しやすいよう、自主学習会の実施やスタディーホール等の環境整備を行った。	・学習に対する生徒の意欲を高めること極めて重要であり、個別・最適化された課題を与えるためのスタディサプリの利用や自主学習会、定時制との連携によるスタディーホールの夜間利用など評価できる。 ・大学や専門学校での指導を通じて、高校に比較し、高校での学びが受動的な気がしているので検討して欲しい。	
		3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	進路目標に応じた学力を身につけたと自己評価している生徒が80%以上である。	サクセスシステムの取組を着実にを行うとともに、スタディサプリ等を活用して個々の生徒に最適化された学習手段を提供し、生徒の進路実現を可能にする学力を身につけさせる。	B	B			B
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	生活係会議を月に3回行い、生徒に関する情報を共有し、組織的・継続的な指導を行う。	計画的に情報交換を行う場所を設定する。	A	/	A	職員会議、企画会議、生活係会議、いじめ防止対策委員会等を定期的に行い、生徒に関する情報を職員間で共有し、組織的に対応することができた。 交通安全については、軽微ではあるが不注意による事故が多発した。重大な事故になる恐れのあるケースもあり、引き続き指導していく。ヘルメットの着用率については、「登校時、学校周辺」においては100%であるがそれ以外の場面での未着者が目立つ。 欠席率は5%を下回ったが（2.3%2学期末）、コロナ禍以降顕著に増加傾向にある。 全体として、安心で安全な学校づくりのために、全職員で組織的に対応していくことが重要である。生徒を取り巻く諸問題はますます多様化しており、また、いわゆるブラック校則やLGBTQに対する配慮など学校を取り巻く社会の捉え方も年々めまぐるしく変化している。これらに迅速に対応した生徒指導を行っていく必要を感じる。	・ヘルメットの着用については、学校から離れると未着用者が増えてくる。学校のみならず、保護者とも連携して更にしつかりとした指導をする必要がある。 ・いじめ問題は学校にとどまらず社会の中でも起きている重大な問題である。毅然とした態度で対応するとともに、精神的ダメージを受けた人に対するフォローも大切であり、気にかけて欲しい。	
		5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	「学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っている」と認識している生徒が80%以上である。	普段の生活での観察や二者面談などから得た情報に対して、速やかに組織的に対応する。	A	B			B
		6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	自転車通学者のヘルメット着用率を100%である。  欠席率が5%以下である。	毎朝職員による登校指導を行う。  特に連続して欠席になった生徒については、生徒、保護者との連絡を密に行い、初期対応を怠らない。	A	A			A
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	ドリームプランの進路指導企画が自分の進路を考えるために役立つと思う生徒が80%以上である。	進路選択に際し、生徒にドリームプラン各企画（大学模擬講義、進路講演会など）の意義を十分に理解させるとともに、生徒が自分の進路について主体的に考え、具体的な方向性を持てるような取り組みを展開する。	A	A	A	生徒が自身の進路について主体的に考え、具体的な方向性を持てるよう、適切なタイミングで進路講演会、大学模擬授業、大学見学会や進路希望別の説明会を実施した。 また生徒に向けて、進路実現のためには計画的な学習が重要であることを、様々な手段（通信や集会等）で繰り返し伝えた。生徒は黒門手帳を活用し、日々の生活を計画的に送れるよう工夫した。担任をはじめとする教員による定期的な面談や助言も有効に機能している。調査範囲や長期休業の課題内容を時間的に余裕を持って発信し、自主的に学習できる時間を確保した。	・将来を見通しての進路意識の低さは、多くの学校で共通している課題である。社会はコロナ禍を経て更に急速な変化を遂げているので、時代の変化に対応できる生徒を育てていくことが大切である。 ・進路目標を確立していくために二者や三者の面談は有効であると思われる。	
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	進路実現に向けて計画的に学習に取り組んでいる生徒が80%以上である。	生徒一人一人に関係する全教職員が、進路実現のための共通認識を持つとともに、面談等を通して保護者とも情報を共有し、授業や家庭学習、課外補習等に主体的・計画的に取り組めるよう目的意識を醸成する。	B	C			B
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	メール連絡網や『黒門通信』、ホームページなどで学校の様子や生徒の様子がよくわかると考える保護者が80%以上である。	情報部とも協力し、メールの迅速さや黒門通信の詳しさ、ホームページの視覚的わかりやすさを効果的に活用して発信する。	A	A	A	『黒門通信』は2ヶ月に1回のペースで発行することができた。ホームページの更新やメールでの情報発信は、行事など機会あるごとに迅速に行うことができた。今後もこうしたツールを大いに活用していくとともに、他に活用できる場面や内容、方法などを模索していきたい。	・部活動や個人などが多くの校外活動を行い地域に貢献している。これらについて広くPRに努めるなど、地域に対して積極的に情報発信して欲しい。	
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	ICT機器を学習に効果的に使用できている職員を80%以上にする。	グーグルドライブ内に共有フォルダを作成し、生徒・教員間のファイルのやり取りをスムーズにする。また、スタディーサプリを活用した学習指導を取り入れる。	C	A	B	進路指導部を中心にスタディーサプリを活用した課題を配信している。生徒は個人の端末を活用し、学習に取り組んでいる。授業においてもICTを活用した職員の授業改善が行われている。職員が授業を参観することで、ICTの活用方法を共有できている。継続してICTを活用した授業改善を行ってほしい。  職員会議資料等をグーグルドライブ保存したことにより、ペーパーレス化できている。	・時代の進歩が早すぎるが、ICT活用による授業改善や会議のペーパーレス化などしっかり対応している方だと思う。一方で進路先の上級学校や実社会での状況を鑑みると一層の活用推進を望みたい。	
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	ペーパーレスの職員会議を10回以上実施する。	グーグルドライブ内に共有フォルダを作成して、会議資料を閲覧できるようにする。	B	/			B
Ⅶ 特別な支援を要する生徒への適切な対応を行っていますか。	12 学校への適応等その他で悩んでいる生徒、特別な支援を要する生徒に適切な対応をしていますか。	悩みを抱える生徒及び特別な支援を要する生徒を90%以上把握している。また、把握した生徒については全てについて適切な対応に取り組んでいる。	生徒理解調査(年度当初に実施)及び生活アンケート(年3回実施)の内容を、生徒が学校や教職員に悩み等を訴え易いよう継続して見直す。また、本校教職員だけでなく、SCや通級など外部機関との連携を通して、より適切な対応が取れる体制を整えて取り組んでいく。	A	A	A	本校職員全体で協力して真摯に取り組んだ結果として、自己評価が100%になったと考えられる。その一方で、本校の取組について、保護者への周知(紹介・案内)が十分でなかったりあるいは直接関わらなかった(関わる必要の無かった)生徒及び保護者による評価が影響していると推測される。本校の取組を周知・広報することも、今後検討が必要になると考える。	今は高校に限らず、小中学校から大学専門学校に至るまで様々な困難を抱えている生徒が少なからず在籍する。教員が情報を共有し生徒の個性に引き合せて取り組んでいく姿勢は今後も継続して欲しい。	